

第26回

金春康之演能会



仕舞 老松 本田芳樹
仕舞 経政 キリ 佐藤俊之
仕舞 羽衣 クセ 金春安明
仕舞 角田川 金春穂高
天鼓 櫻間金記

西行法師の夢中に

花見客の喧騒を嫌う

狂言 太刀奪

善竹隆平 ほか

白髪の老翁として現れた桜の精が

能

西行桜

金春康之 ほか

春の夜に見せる老体の舞・・・

その閑かで美しい舞こそ

世阿弥が後世に遺そうとした

老いの美なのでしょう

奈良春日野国際フォーラム
萱

—2010年3月21日(日)

午後1時～5時

能『西行桜』について

「西行の能」について、『申楽談儀』に、「西行・阿古屋の松、大かた似たる能也。後の世、かかる能書く者や有まじきと覚えて、此二番は書き置く也」と述べられ、また「西行の能、後はそと有。昔のか、り也」とも述べられています。世阿弥は自分の芸術世界を遺そうというはつきりした意図をもつて、後半がひつそりとした能を書いたと言うのです。確かに、花見客が花のもとで眠りにつくで舞台から去ると、ひつそりとして美しい世界がはじまります。花のもとで眠る西行の夢の中に老翁姿の桜の精が現れて、京の花の名所をたたえ、春の夜が明けてゆくまで美しい舞を舞います。『風姿花伝』には、老体の舞について、「花なくば面白き所あるまじ。……老木に花の咲かんがごどし」と書かれています。老体の能は老体の「美しさ」を表現しなければなりません。しかも桜の精であれば、弱々と風に漂い、ひたすら極楽往生を願う『遊行柳』の老翁とは違う、華やいだ美しさが求められるように思われます。

金春康之プロフィール

一九五〇年広島生まれ。シテ方金春流第七十九世宗家金春信高師のすすめで奈良に転居し、七歳で金春欣三師に師事。京都大学、大学院を通じてハイデッガーの哲学のなかにある芸術思想を研究し、奈良県立美術館の学芸員を勤めていたが、一九九九年に退職し、能に専念。二〇〇一年、重要無形文化財能楽総合保持者に認定。

□入場料	正面指定席 5500円
	脇正面指定席 4500円
	中正面指定席 3500円
	学生席 2500円
★入場券発売 2020年1月17日（金）から	

□お問い合わせ・お申し込み（受付時間10時～17時）

金春康之後援会事務局

TEL/FAX 0743-56-3169

□主催 金春康之後援会・桃心会

後援 奈良県

関西元気文化圏参加事業

能楽ホール 座席図

